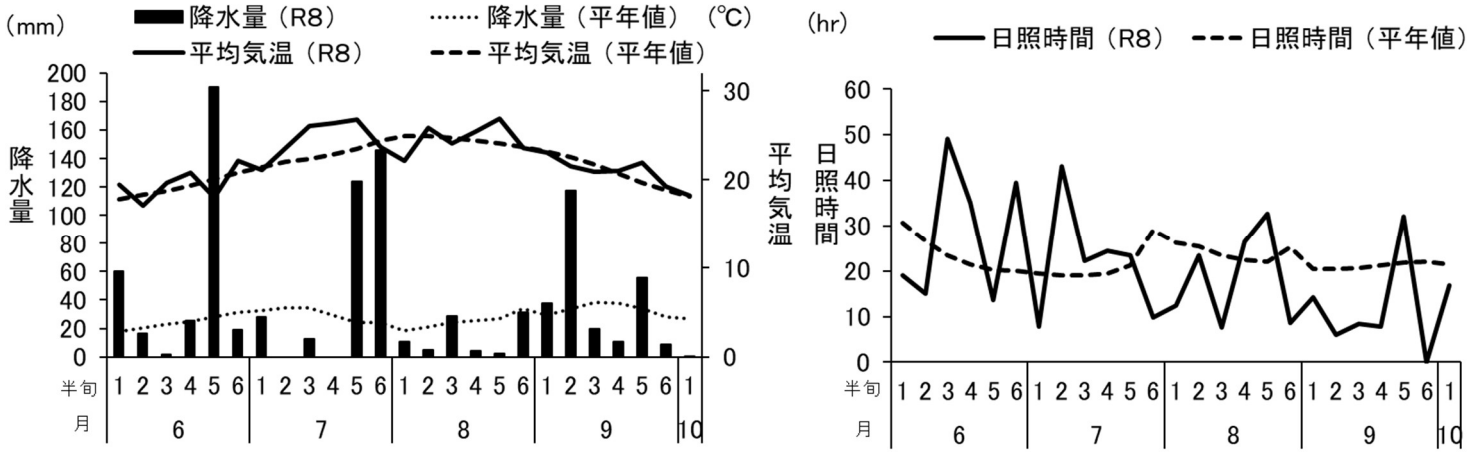
# 仙台大豆作情報

令和８年度第４号
令和８年 10 月 14 日発行
宮城県仙台農業改良普及センター
TEL　022-275-8410

## ○収穫作業のポイント

**・汚粒を防ぐため、収穫前に雑草や青立ち株を抜き取りましょう！**
**・適期収穫、適切な乾燥調製で上位等級に入る品質を確保しましょう！**

## 1　気象経過（６月第１半旬～10 月第１半旬）




○気　　温：６月以降、平年並か高く推移しましたが、８月上旬は低くなりました。
○降 水 量：７月下旬は平年よりかなり多くなりました。また、８・９月は前線や低気圧、台風の影響で雨の日が多くなりました。
○日照時間：７月下旬から平年より少ない傾向で推移し、９月はかなり少なくなりました。

## 2　生育概況（標播）

表　生育調査ほ調査結果（９月１日時点）

| 品種（地区） | 調査年 | 播種日 | 開花期 | 主茎長（cm） | 主茎節数（節/本） | 分枝数（本/本） | 成熟期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| タンレイ（仙台市宮城野区岩切） | 本年 | 6月16日 | 8月3日 | 57.5 | 13.3 | 2.7 | - |
| | 前年差 | 4日早い | 1日早い | +13.1 | +0.4 | -0.7 | 10月27日 |
| | 平年差 | 1日遅い | 3日遅い | +4.4 | +0.5 | +0.6 | 10月21日 |
| ミヤギシロメ（仙台市若林区荒井） | 本年 | 6月13日 | 8月6日 | 83.3 | 15.1 | 3.8 | - |
| | 前年差 | 5日早い | 2日早い | -1.1 | -2.1 | +0.5 | 10月31日 |
| | 平年差 | 2日早い | 1日遅い | +8.6 | -0.3 | -0.1 | 11月1日 |

※平年値は５か年平均。

**<タンレイ>**
・平年と比べて主茎長が長く、主茎節数、分枝数は多くなりました。一方、降雨が続いた影響で、ほ場の一部で滞水していたため、生育不良の株も見受けられました。
・10 月 8 日現在でほ場全体で葉が黄化し、落葉期に入っています。

**<ミヤギシロメ>**
・主茎長が平年より長く、一部で蔓化が見られましたが、主茎節数及び分枝数は平年並となっています。
・10 月 8 日時点で黄化および落葉が始まっていました。

〇完全落葉後 15～25 日程度が成熟期の目安となるため、タンレイは 10 月下旬、ミヤギシロメは 11 月上～中旬に成熟期を迎えると見込まれます。



写真１　タンレイ
（10 月８日　仙台市宮城野区岩切）



写真２　ミヤギシロメ
（10 月８日　仙台市若林区荒井）

## 3　収穫作業のポイント　～適期収穫と汚粒対策～

コンバインによる収穫適期の判定は、子実と茎の水分がポイントです。茎・莢の色や莢内での子実の振動音、茎の切断音など総合的に判断する必要があります。大豆の成熟経過は以下のとおりとなりますので、ほ場ごとの生育ステージを確認しながら、作業計画を立てましょう。

### 【大豆の成熟経過とコンバイン収穫適期】

**落 葉 期**
・葉や葉柄が黄変して落ちる、または手で触って簡単に落葉する

**成 熟 期**
**(完全落葉後 15～25 日)**
・茎や莢が品種特有の色（褐色）に変化
・莢を振るとカラカラと音がする

**コンバイン収穫適期**
（成熟期後 10 日～）
・子実水分が 18%以下
・前日や当日の降雨なし
・収穫可能時刻 10～16 時頃

茎水分 70%程度
・茎に緑色が残る

茎水分 60%程度
・茎は莢と同じ褐色

茎水分 50%以下
・茎がやや黒味を帯び、手でポキッと二つに折れる
・茎の「ぬめり」が無い

◎**大豆のコンバイン収穫において問題となるのは「汚粒」です。次の点に注意しながら、収穫作業を進めましょう。**

### （１）収穫前に雑草や青立ち株を除去し、汚粒の発生を防ぐ

茎や実に色がある雑草（イヌホオズキなど）、大型で乾いていない雑草（アメリカセンダングサ、クサネムなど）、青立ち株は茎水分が高く汚粒の発生原因になります。**収穫前に可能な限り抜き取りましょう。**

### （２）適期収穫を行う

コンバインによる収穫判断は、子実水分や茎水分を目安にして行いましょう。

**・子実水分が高い（20%以上)→つぶれ粒等の発生**
**・子実水分が低い（14%以下)→割れ豆等の損傷粒が多く発生**
**・茎水分が高い　　→汚粒の発生につながる**

茎水分の高い株について、莢が著しく少ない青立ち株の場合、雑草と同じように抜き取る必要があります。一方で、**生育むらによって水分が高い場合や莢が成熟していても茎が緑色のままで、莢数が普通～多い場合は、可能な限り茎水分の低下を待ってから収穫しましょう。**

### （３）収穫作業は、午前 10 時～午後４時頃

収穫時間によっても穀粒損失と汚粒の発生割合は変化します。莢や子実水分が高まる時間帯を避け、午前 10 時から午後 4 時頃を目安に作業しましょう。前日に雨が降った場合は、莢の水分状況を確認してから作業をしましょう。

### （４）作業速度を抑えて、土を掻き込まない

汚粒発生の一番大きな原因として「土の掻き込み」があげられます。**約 10cm 以上の刈り高さを確保**するとともに、作業速度はゆっくりとし、コンバインの刈刃が土を掻き込まないように注意しましょう。

特に「生育が旺盛で作物量が多い」、「倒伏している」などの場合はさらに作業速度を抑えて刈りましょう。土がヘッダ部に入ったら速やかに作業を停止し、ヘッダ部の土や莢の除去など掃除を行うことが重要です。

## ４　乾燥作業

県産大豆は大粒種が多く、吸水性にバラツキが出やすくなります。乾燥調製作業では大豆の吸水性に大きな影響を及ぼす穀粒水分と粒揃いが、最も重要なポイントです。仕上がりは、被害粒や異物がなく、子実水分は 13%程度で、よく成熟した粒揃いの良いものを目標に調整しましょう。

### （１）こまめな水分測定

ほ場によっては、子実水分のバラツキが大きい場合があります。荷受時、乾燥時に**こまめに水分測定**を行いましょう。

### （２）適正な乾燥温度

・循環式乾燥機等による加温乾燥の場合は、**送風温度を 30℃以下**とし、裂皮粒やしわ粒の発生を抑えましょう。
・平均水分が 18%を超える場合は、さらに送風温度を下げて乾燥しましょう。

## 5　東北地方１か月予報（仙台管区気象台　令和８年 10 月８日発表）

| | |
|---|---|
| 向こう１か月<br>10/10～11/9 | 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。また、降水量及び日照時間はほぼ平年並の見込みです。 |
| １週目<br>10/10～10/16 | 平均気温は平年より高い確率が 80%です。 |
| ２週目<br>10/17～10/23 | 平均気温は平年より高い確率が 70%です。 |
| ３週目<br>10/24～11/6 | 平均気温は平年より高い確率が 60%です。 |

**秋の農作業安全確認運動　～令和8年９月１日から 11 月 30 日まで～**

農作業安全確認運動テーマ

『徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策』

県内における過去 10 か年の農作業死亡事故は、農業機械作業に係る事故が全体の約８割を占め、そのうちトラクターによるものが半数を超えます。

**◎以下の対策を徹底しましょう。**

【事故防止対策】

○ ほ場周辺の危険箇所の確認・危険回避行動の実践
（危険箇所での減速、危険箇所の迂回ルートの設定など）

○ 危険箇所の改善（道路端や曲がり角の草刈り、路肩の補強など）

【被害軽減対策】

○ シートベルトとヘルメットの着用

○ 安全キャブ・フレーム付きトラクターの利用

